東久留米

教育委員会だより

第 41 号
平成24年（2012）
7月1日発行
編集発行　東久留米市教育委員会
〒203-8555東久留米市本町3－3－1
電　　話　042(470)7777

特集！ 中学生の職場体験

楽しかった　ドキドキした

「お買い上げ、ありがとうございました」「こんにちは。いらっしゃいませ」。元気な声に振り向くと、店内にはエプロン姿も初々しい若者の姿が…。現在、文部科学省により、全国の公立中学校では、生徒が事業所などの職場で働くことを通じて望ましい勤労観や職業観を育成し、学ぶ意義を理解するための学習活動である「職場体験」を行っています。職場体験は平成22年度の調査では約97％の公立中学校で実施されています（国立教育政策研究所生徒指導研究センターの調査結果による）。本市でもこれまで、市内の事業所などに中学2年生を受け入れていただき、生徒はいろいろな思いを胸に巣立っていきました。今号では「職場体験」をした生徒の感想を紹介し、「学ぶこと」と「働くこと」について考えてみたいと思います。

なぜ職場体験が行われているのでしょうか

子どもたちを取り巻く状況は…

今、子どもたちの生活や意識が、これまでとは大きく変わってきたと言われています。その要因として、文部科学省では、子どもたちを取り巻く状況を次のようにとらえています。

「少子化の進展等により、規範意識の低下や人間関係の希薄化、社会の一員としての自覚や責任感の低下などが指摘されています。職業の選択・決定を先送りにするモラトリアム傾向やフリーター志向の広がり、ニートなどの問題が指摘される中、生徒の進路意識や目的意識の低下が懸念されています。

学校段階での課題としては、不登校や中途退学についても、将来の社会的自立に向けた支援の観点から『進路の問題』としてとらえることの重要性が指摘されています。何のために学ぶのか、学び続けなければならないのか等、学ぶことの意義という、教育の根幹が問われています。今の子どもの生活の中では疑似体験や間接体験が多い一方、社会体験や自然体験等の直接体験の著しい不足が大きく影響しています。将来に夢や希望を抱いてその実現を目指し、職業生活に必要な基礎的な知識や技術・技能の習得への理解や関心、望ましい勤労観や職業観の育成はすべての子どもに必要であり、生涯にわたって自己の職業生活をたくましく切り拓いていこうとする意欲や態度、目的意識などを培うことがこれまで以上に大切になります」。

こういった課題を解決していくためには、家庭や地域との連携、子ども自身の資質や個性によるところもありますが、学校教育に大きく求められているものもあり、それが文部科学省で重点を置いている「キャリア教育」なのです。そして、子どもたちに望ましいキャリア教育を行う有効な手段として挙げられている一つが、中学生の「職場体験」です。

「職場体験」に求められているものは…

文部科学省では、「職場体験」には体験を重視した教育の改善・充実を図る取り組みの一環として、大きな役割が期待されているとしています。

中学校学習指導要領では、体験的な学習や問題解決的な学習を重視しています。平成16年1月の「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」では、小学校段階から発達課題に応じての「キャリア教育」を推進することが提言され、その一環として、職場体験等の体験活動の促進が重要であると指摘されています。

職業にかかわる体験は、「働くのは大人になってから…」と疎遠になりがちだった学校教育のあり方を見直し、今、教育に求められている「学ぶこと」「働くこと」「生きること」の尊さを実感してもらう場となるのです。特に、中学校での職場体験は小学校での「街体験・職場見学」等から高等学校でのインターンシップ等の体験活動を系統的につなげていく意味において、重要な役割をもっているとされています。

本市ではこれまでも市内や近隣市の企業、事業所や農家の方に受け入れていただいてきました。

生徒を受け入れた遠藤さん（市内の農家）からは、「何に対してもそうですが、自分の行動が今、どの手順の中にあるかを理解していることはとても大切です。うちでは『自分で考えて行動する』ことを体験してもらいました。それができれば学習でもどんな場面にでも、新たな一歩を踏み出せると思いますよ」と、エールをいただきました。

実際の職場で体験させてもらいました

昨年度は、市内7校の中学2年生（当時）が職場体験を行いました。その時の各校の体験談をお伝えします（行政順。いずれも現在は3年生）。

萩原菜月さん
（久留米中学校▽職場体験先は市内の物流会社）

三日間の主な仕事内容は午前中に日用品など、午後は包装資材などの仕分けでした。職場の方に丁寧にやり方を教わったので、早く仕事を覚えることができました。一日目はまだ慣れないため、ペース良く作業を進めることができなかったので、明日はもっと上手くできるようになりたいと思いました。二日目。昨日なかなか上手くできなかったことも少しずつ量も多く、早いペースでできるようになっていました。仕分けするコツもつかめてきたので、明日はもっとこのコツを生かして仕事をしたいと思いました。

休憩中、いろいろな話を伺いました。この仕事の大変な点は、「その日の物量によって働く時間が変わることと、間違えないようにシールや値札を商品に貼ること」。この仕事が大切だと思える点は、「商品がお店に並ぶにはこういう地道な作業があるからこそ！」ということです。また、一番つらかったことは「東日本大震災後の計画停電中に、前倒しで作業をどんどんしなければならなかった時で、夜中の2時までかかったこと」だそうです。

商品を仕分け中の萩原さん（手前）

最終日、「これだけできるならここで働けるよ」と言われて、とてもうれしかったです。慣れてくると、自分から積極的に動けるようになっていました。この職場体験をこれからも生かしていきたいと思いました（萩原菜月さん、小室京香さん、小川麻美さんの3人で参加しました）。

下澤悠太さん
（東中学校▽職場体験先は市内の釣具用品製造メーカー）

ぼくは道具を作ることが好きなので、職場体験先にこの会社を選びました。一日目は商品のチェック、釣り竿のリールの製造及び部品の組み立て、二日目はロッド（釣り竿）の製造を体験しました。

この体験を通して仕事の楽しさや面白さ、そして礼儀を学びたいと思っていました。

体験中に気をつけていたことは「言葉遣い」「責任を持って最後までやり通すこと」ですが、自分としてはできたと思います。一番感じたことは「常に真剣に取り組む」ということです。また、印象に残ったことは、職場の方が常に笑顔で働いていたことです。そのおかげで、仕事に疲れた時もホッとできました。一日目にはハプニングもありました。昼食を食べに食堂に行った帰りに迷子になってしまったのです。何とか職場に戻れましたが、途中、いろいろな人に助けてもらいました。

左が下澤さん

ぼくはこの職場体験で学んだことを生かし、常に真剣に取り組み、毎日の生活をできるだけ笑顔で過ごせるようにしたいと思います。

小林大介さん
（西中学校▽職場体験先は市内の運輸会社）

今まで、仕事の目標はお金を稼いで、裕福になることだと思っていました。しかし、今回の職場体験で、そうではないように思えてきました。

三日間、毎日、中野区と東村山市に行きました。そこの会社は財団が支援しており、働いている方の多くは障害を持った方でした。なぜ、皆さんは苦労して働いているのかなと思いましたが、「自分だけ助けられ続けるのではなく、誰かのために役に立ちたい」と思われていることが分かりました。

自分たちが体験したのは、東村山市の会社で積まれた荷物を、いろいろな場所へ運ぶことです。「包装が破れたらもう商品にはならないので、責任をとらなくてはならない」と聞き、「大人の事情は厳しい。社会の掟（おきて）は測りしれない…」と感じました。荷物の重さも尋常ではなく、雑誌やチラシであれば何十冊・数百枚の固まりが20箱、30箱と積んでありました。台車に乗せようとしてもビクリとも動かなかったのに、運転手の方には軽々と運ばれてしまいました。プロの大人の力にビックリ！「腰を入れるんだよ」とアドバイスをもらいました。持ち上げる前にすることがあるなんて…。

中央が田坂さん、右が小林さん

また、区役所に荷物を届ける時、運転手の方が経路を聞いていたので理由を尋ねたところ、「商品を傷つけないよう、安全に運ぶルートをつくるためだよ」とのことでした。毎日、この仕事をしている方には当たり前なことでも、自分だったら普通に正面玄関から入って、荷物を届けたと思います。手間がかかることでも、商品を傷つけないような工夫をされていることが分かりました。

ほとんどの人が大人になると就職します。どこの会社で働いても、給料が支払われているだけではなく、誰かのために役立っていると思いました。「仕事というものは、この世界になくてはならないものだ」と思いながら、この三日間を終えました（小林大介さん、田坂英晴さん、高橋尚文さんの3人で参加しました）。

佐藤直緒さん
（南中学校▽職場体験先は近隣市の結婚式場のウエディングプランナー）

一生に一度の結婚式をプロデュースする仕事にあこがれていたので、この仕事を選びました。体験先では本物の招待状の枚数やプロフィールの確認、名札を作る作業もお手伝い。意外と事務仕事も多いことが分かりました。ドレス

（2面に続く）